



義仲勳功圖會

六

遠
2508
10-6



遠
2508
卷 10-6

木曾義仲勲功圖會後編總目錄

卷之壹

- 一筑摩川合戦
- 一杵淵重光復主仇戦死
- 一本曾勢夜討通威敗軍
- 一根井武勇拔取賀城
- 一義仲与頼朝確執
- 一富部家俊被討西七郎
- 一資永敗軍已女武勇
- 一端涸音謀計使資永氣死
- 一中定隆覺筭法印要死
- 一兩源家和平赴清水冠者鎌倉

卷之貳

- 一平家北國征伐
- 一北國任人等敗走
- 一齊明与射水争論
- 一齊明反忠燧城陷洛
- 一般若野合戦兼平武勇
- 一義仲手配并垣生八幡願書

- 一 碓氷山合戦平家敗軍
- 一 志保山合戦行家敗北
- 一 齊明法師 兵 瀬尾父子被為虜

卷之三

- 一 篠原合戦齊藤實盛戦死
- 一 山門大衆議論
- 一 法皇暗渡御山門
- 一 法皇還都 兵 義仲行家受領
- 一 西之宮御受禪 兵 行家知安等譏奏義仲
- 一 備中水嶋合戦
- 一 瀬尾父子反忠 兵 戦死

卷之四

- 一 北軍洛中乱妨
- 一 義仲焼伐法住寺殿
- 一 清水冠者以海野入道諫義仲
- 一 義仲將軍宣下 兵 諸方手配
- 一 宇治合戦 兵 根井大彌太退武勇
- 一 義仲出陣 兵 松殿之姫愁傷
- 一 義經至臣守護仙洞御所

卷之五

- 一 川原合戦望月太郎陣没
- 一 木曾方諸勇士戦死

- 一 塩谷三郎討八島行忠
- 一 巴女根井以下大愾鎌倉勢
- 一 根井戦死 并 白山重忠狙巴女
- 一 巴女勇力討内田三郎
- 一 今井兼平勇戦方等三郎戦死
- 一 東北西軍大戦栗津野
- 一 義仲中流箭 并 兼平勇戦陣没
- 一 樋口兼光成虜被為誅
- 一 清水冠者落命 并 京鎌倉平定

總目録畢

木曾義仲勲功圖會後編卷之壹

筑摩川合戦條

浪速 山珪士信考訂

兵書曰夫兵絶道也故非計策無以决嫌疑非編奇無以破奸息寇
 非陰謀無以成功昔漢祖之與仁義之舉成爲之虫是二乃者小於
 不免所あり況末代小於を也。木曾冠者義仲公度高倉官の令旨
 成得より。天下の濁乱を除んと頼小義氣を憤發し。遂小旗を北陸道小
 翻し。手初小一計を絶し。室原頼直が家城を攻取し。遠近の智勇
 小伏し。攻さる小降し。招さる小従ひ。其勢以日成追々長大なりぬ。茲小於
 越後乃守護職城太即資長平家の令を得。木曾成退治せんと既小
 四萬余騎乃大軍成列卒し。横田川に於出張し。敵の動靜成見せしむる
 小。十分小不足小勢なりと回し報せし。小より。大は是成侮り。睡し。只
 一戦小蹴散さし。事小成げ小思居たり。河小木曾殿之緒軍小酒者成子へ

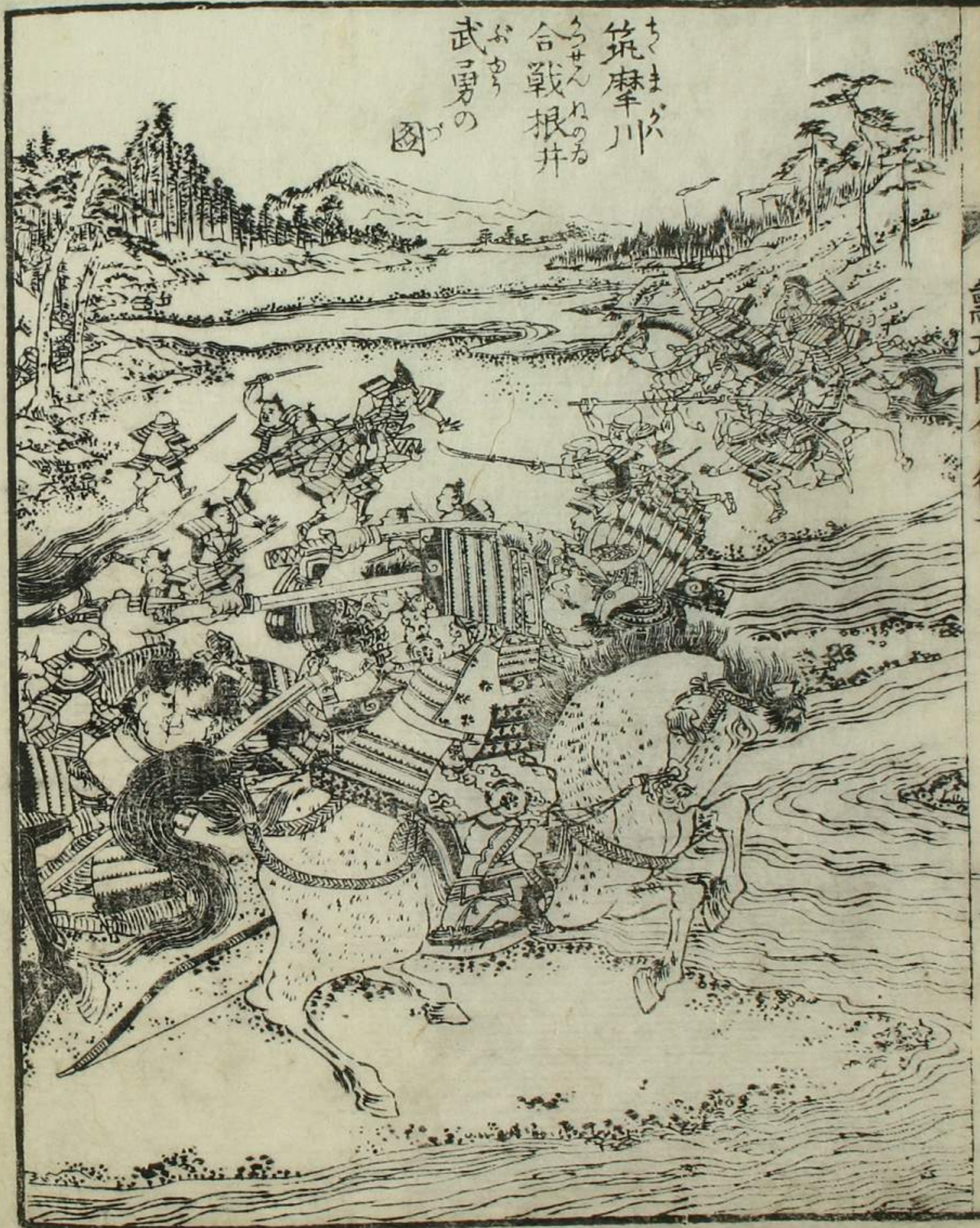


十分小喫せし。扱亦仰多し。列位物敷なり。義仲成枝。平家の虐政
 を乳とせし。冬。其ハハ。更なり。天下の幸福なり。これハ。平家ハ世
 成ら。廿余年。就中小松内府仁徳。成。普。四海。小布施。今其人亡
 と。猶其思沢を感。平氏の為。小死力を竭。と。み。者。多。る。べ
 一。其ハ。継。継。裡。より。孤。と。なり。漸。兼。遠。情。中。都。遠。死。木。曾。小
 人。と。なり。と。ハ。普。代。思。顧。の。即。當。と。も。多。なり。平。家。小。比。一。九。牛
 一。毛。の。微。勢。と。去。り。あ。れ。と。前。ゆ。り。一。軍。ハ。兵。士。の。多。寡。小。限。ら。ど。一。二
 の。綸。を。致。す。細。今。人。の。賊。有。り。其。身。刑。罰。小。逢。と。死。必。死。の。身。な。れ。と。死
 を。一。途。不。決。一。自。刃。成。揮。り。市。中。ハ。行。小。市。中。の。大。勢。是。を。捕。と。も。者。を
 各。島。の。一。一。視。狼。の。一。一。顧。一。一。管。小。逆。避。彼。為。小。害。せ。れ。と。せ。ん。是。一
 人。の。賊。と。勇。小。一。一。市。中。の。多。勢。ハ。億。病。なり。小。あ。り。と。賊。ハ。一。途。小。死。を。究。め。恐
 る。処。なり。市。中。の。多。勢。と。死。を。究。め。れ。と。自。然。鏡。氣。な。り。と。れ。と。一。人。

死を究むれを千人を懼小足まり。今。資。永。が。勢。ハ。四。万。余。騎。味。方。ハ。一。二。千
 余。騎。敵。小。比。多。し。十分。一。の。中。に。一。の。も。と。味。方。悉。く。一。死。賊。と。なり。向
 一。何。の。怖。り。あ。り。と。れ。を。一。途。小。死。を。心。中。軍。令。小。違。と。有。り。昔。魏
 の。文。侯。の。時。秦。より。五。十。万。の。勢。を。り。魏。の。西。河。を。侵。さ。し。と。其。時。吳。起
 弱。兵。五。万。を。り。是。ハ。當。り。大。ハ。勝。利。を。得。り。秦。軍。成。追。退。し。と。これ。即
 吳。起。の。兵。の。勇。壯。と。秦。の。兵。の。柔。弱。なり。小。あ。り。と。必。死。と。必。生。の。違。わ。れ。也
 況。我。旗。下。の。人。々。と。皆。勇。壯。敵。小。十。倍。せ。り。衆。軍。心。を。一。致。せ。り。自。己。の。高。名。更
 と。せ。と。一。死。賊。と。なり。敵。小。當。ら。む。と。勝。利。を。得。と。と。因。り。明日。の。合
 戦。と。衆。人。死。を。旨。と。し。敵。小。向。ひ。と。是。ハ。由。教。示。せ。れ。と。各。大。ハ。勇
 一。つ。つ。十分。英。氣。を。生。じ。御。暇。賜。り。と。面。々。の。陣。飯。り。明。る。進。し。待。居
 たり。去。程。小。養。和。元。年。六。月。十四。日。の。夜。一。以。と。明。り。下。り。源。平。の。兩。勢。備
 を。押。出。と。時。小。城。太。郎。資。永。敵。陣。を。見。り。と。左。右。を。顧。り。曰。憐。び。下。義。仲

由りて練級を企あの小勢をもちて我猛軍小當らんとしる。更鷄印を以て
 般石を推し、蟠螂を分て揮りて車小向小異なり。維り先陣小進
 と敵小泡吹とたどるといふ。終りる濱小平太を今日先陣賜ハ
 らんと呼り。千の勢三百騎を一隊と真先小押出と木曾殿の陣より由
 是をなぐ。那和太郎廣澄手勢百五十騎もく押出し筑摩川を颯と涉り
 兩陣互に陣を合し。矢合の鏑射ちふる程とあき各得物をあ揮りひひ
 と寄合し曳き声りく歩合ひり。小平太が陣忽ち切崩され、移々と乱れ本
 の陣場へ引退く。那和之敵の首を得ると廿七級手始りて悦勇と引退り
 たり。資永幼度の合戦を仕損し大に憤り。奥山推頭小令を傳へ急死池向
 先敗の耻辱を雪だれいと下知れぬ。推頭承りり子息横新太夫と俱小是
 も三百余騎一毎小押出と木曾どの御内小と塩田八郎高光兵百騎を幸
 く奥山と向ひ合せ。大水小成り操合し。此度も木曾方勝り取高名りく

引退む。奥山、這々の躰ふく引入り。三番と小沢左衛門尉景俊五百余騎、兩
 度の敗軍、憤り、殺氣を上り進み来る。其体等困りしが、木曾の下知
 り根井大弥太忠親を向谷より根井は是成暗の勝負と。手勢二百騎小
 池向し。忠親、其日乃扮装ふと。黒系威り鎧小口毛乃兜を著し。湯布乃
 直垂著る。二十四指さる蹴鳥羽の征矢を負。鹿毛なる馬小青貝の鞍、丸く
 萌黄乃厚綿の鞆、一丈許の楯の棍乃手元圓く先と八角小削り、筋
 金の上より貝尻の如た鉄を透間ぬき、ササを振擔、徐々と馬成乗出と
 体天晴剛乃者やとを刀えり。小沢景俊と當り敵の馬印をん。滋
 野の根井と刀々く、泊りたる。小自も馬を素出と。景俊が扮装と大
 荒岡乃鎧小銀の三日月乃前立物せ。三枚兜を指首小着なり。黄純、子乃
 甲直垂著る。廿四差さる鶴鳥羽の征矢、皆高小負かり。二所、後の方乃握太ある
 を小眼小掻、黒の釣小鏡鞍、おたり。打誇り手綱、掻繰り、歩せ出馬、上小一揮



一々云々夫なると滋野の根井のと見入る倭國の御辺に數代信列の住
 人々々人々も知るる名家なる小何の不足有てう鶴恩の平家小背死反送不
 義の木曾を技家乃浪滅を招之とせらるやと鞍坪叩く呼らるまむ
 根井巨口然用く呵々として盗路が大を孔子茂吠るとハ汝が更よ抑平族
 乃暴悪虐政八百乃王莽董卓も勝りて天地人も小是茂怒る我君義
 仲公天小侍は是茂殊戮し民を水火の中より救之と一ハ然る小汝ホるハ
 悟くど一々平賊の幕下小属して天命去るハ白痴漢なり早く魂を脱
 旗を巻く降参し先罪を改る小わらむとハカ心ち白刃首小臨て五臓之所
 々乃土小せ乙びらむとと屬声小旬返一々小ど小沢史く大ハ小奴心も憎死
 奴の悪言く其議かむ天罰の一箭ありハ知を命れどと弓矢とつとハ
 番ハ後ハひ定く兵と放つ忠親あま者なれむ些も驚くむと私來る矢と
 持し小棍ゆと発止とハ落し馬小一拍く菟出と小沢ハの矢を射指ト早

二う箭成番切放つ根井是茂の身を沈く避疾風乃ぐく収ま菟
 根井がキの者主小後トと周成造く菟進む小沢ハ根井が手連く
 寄くちくろろ小驚た弓投捨く太刀抜拵一五六合抄合を小沢ハ即意王
 を討せトと雲霞のぐく押出ハ忠親小あま者なれむと根井小沢ハハ小兩勢小
 押隔ら生物別せが忠親獅子の怒成見ハ件ハ棍を縦横小揮き敵を
 討てとさかぐ鉄槌を以て瓦成碎かぐ一瞬内小十七八人等成乱せトよ小
 小居々々小と小澤がキの者其饒勇小辟易ハ色々死々々ええれハ忠親
 得とくと味方成顧浪波敵ハ浮足小成とと此様を飽と追立よと呼り
 小自ハ真先小とと難立る王如斯がれハ士卒何と勇ざらハ我ハと精
 神成屬ハ殺到とと小依さハも支勢の小沢が勢遂小足場をまらとと
 足もなく敗まハとと景後も無念ハ味方の勢小引きれとと本ハ
 陣ハ引くハ根井ハ敵首五十余級を得味方ハ小とと徐々と引退ハ為休

通無双の剛の者よと敵も味方も感合たり

富部家俊被討西七郎條

去程小次郎資永ハ已小三ヶ度乃逼合小味方悉く敗れ去り
更ふかり此上ハ物勢一度小押出し敵を二戦蹴散さしと教圍々々
不吾大制し義仲若冠なりとつとも究く謀多死者少くハ先無謀の
戦を止ま某敵成一當あつ味方乃氣を引まひ登しと下ふり資永怒を
抑て是成終一ぬ望原悦び半勢三百騎の中少く勇壯なる殿守百十五
騎擇出し整々と押出し筑前川を綱と涉し大音小呼り々々八當國の
人々或ハ縁体或ハ親族をれを新小い小及むと上野カハ其余の緒外
敵いしむ言小あつ以前ハ信濃國乃住人たつ義仲が一向の録録小
其れ家城を失ひ今浪人々城太郎資永殿の旗下小屬たる望原
平吾頼直しと我更かり我と思へ者とまつと雌雄を決せよと叫び

多る是成ば上野國高山堂物々々やと二百騎を二隊となし突と押
出り渡合二騎も余さつとと操どり々々望原と源平乃刃々前あつ先
年の耻辱成雪んとかりひれ射まじも斬りも更しむせと鎌をなつと
寄ると返り返り寄入替千變万化小攻戦兩軍乃馬蹄大地を
裏蹴る破烟と白日成曇らと許むつとも房しと見え々々高山堂
り二百騎總九十三騎小討たされ叶りつと引退り望原中即ホ六十騎と
討ち残る者も過半手成肩をれも全く勝利を得り攸然と引返せ
む資永ハ細く色を敷平重く望原が武功を賞し々々茲小はれ高か
堂小西七郎廣助とつ武士あり々々只今味方の敗戦せ成言甲斐なく
かり手の者百四五十騎あつ川成り々々平家の陣より富部三
郎家俊は百四五十騎あつ出兩軍迫々寄合つり対小西七郎馬
成とと恥しとあれと白小蝶鳥縫々々鐘直垂小黒系威乃甲の銀の裾金

物少くは着下し、鉄形少くは月毛の甲の緒を締、陣太刀十文字小佩、
 一連銭草毛馬小金覆輪の鞍置、跨りしを、廣助声成け、その敵將を
 維とて向、富部声小應、とて曰、是は信濃国任入小富部三郎家俊なり、さ
 和殿、維と七郎が曰、武者は、みそ音ゆり、昔朱雀天皇の御宇、承平
 年中、鬼神と呼き、平親王將門、成射落し、和漢小英、各成、東、儀
 後太秀、卿より八代、乃末、兼上野国、の任入高山堂、小、さる者ありと、稱れ、
 西七郎廣助と、我より、なり、家俊、なり、我對手、小、あ、と、早く引退、甲、
 々々、た者、成、出、せ、と、嘲り、多、家俊、肚、を抱、大、小、笑、ひ、汝、ハ、戦、場、赴、
 成、先祖、の、手、柄、給、せ、と、樂、く、出、る、其、議、を、我、祖、先、の、武、名、成、由、説、
 我、祖、又、下、総、左、門、正、弘、の、鳥、羽、院、の、北、面、小、召、れ、君、乃、御、覺、芽、出、し、伯、父、左
 清、門、太、丈、家、弘、の、保、元、の、乱、小、續、岐、院、の、御、味、方、小、糸、比、類、を、死、勲、切、を、頭、
 死、其、金、第、布、施、三、郎、維、俊、と、源、平、小、知、れ、し、剛、の、者、我、又、なり、所、
 經

又祖の高名給、ハ、ハ、ハ、経、を、益、を、由、成、死、約、戦、せ、し、り、来、し、我、三
 合成、合、さ、と、汝、が、武、勇、を、知、足、り、と、執、柄、及、小、朝、弄、し、れ、七、郎、大、小、腹、を、互
 憎、ハ、廣、言、其、舌、の、根、切、下、し、と、太、刀、抜、拵、し、菟、向、を、即、ホ、も、と、主、小、後、と
 殺、倒、を、富、部、が、兵、も、日、く、拔、連、と、迎、合、せ、追、つ、返、つ、戦、り、西、七、郎、何、卒、富、部
 と、組、一、騎、射、の、勝負、せ、と、地、面、ま、互、の、家、子、即、黨、推、隔、々、戦、小、と、更、
 其、便、を、得、を、独、心、を、焦、燥、り、斯、く、兩、勢、一、足、り、引、を、或、ハ、射、を、或、ハ、射、を、
 一、程、小、双、方、の、旗、指、射、落、し、切、殺、し、れ、何、も、敵、何、も、味、方、も、分、り、死、
 軍、と、なり、れ、西、七、郎、得、り、や、と、鎧、の、毛、ハ、み、り、知、つ、富、部、三、郎、が、傍、突、と
 菟、寄、押、並、く、無、手、と、組、家、俊、の、敵、を、れ、廣、助、が、鎧、の、上、帯、拵、を、女、同、ハ
 小、拵、合、し、互、小、鎧、踏、切、し、兩、馬、が、合、小、倒、し、落、上、小、下、小、なり、右、手、
 傳、比、左、手、傳、比、昔、岡、の、勝負、中、分、り、家、俊、衛、廣、助、を、取、り、押、腰、刀、
 手、成、挂、し、小、氣、早、の、七、郎、曳、や、し、の、ひ、く、列、返、し、亦、家、俊、を、取、り、伏、終、小、首、
 七

と掻切々か

杵淵重光復至仇戦死條

茲小富部が即黨小杵淵小源太重光とて者あり。朋輩の讒言よらる。家
俊不具衆り。此度の出陣も主は隨後もろもろ叶はと徒小在る。世小
心憂ると小杵ひ。勸當の身なり。味方の勢小拵は好敵の首取
勸當謝の種おせんと。雑兵の中小雜く在る。維つとて富部三郎ハ西
七郎小組討き。大い小せらる。萬行々々小西七郎ハ家俊が首とら
鞍の取付小結付已小列返。休られ。杵淵早く声をうけ。其御
と西七郎よ。是ハ辟目。是ハ富部三郎が家録小杵淵小源太重光と
者なり。眼前主の仇を其終小見遁とぞ。一太刀小斬。馬を鞭を如
七郎ハ先魁よりの戦ひ小身体疲き。戦心なり。不支跡。馬を鞭を如
は行過んと。小源太夫ハ怒り。正を敵の挙動。ふと。い。天

小地付馬の尾筒成抵ん。曳戻と。七郎已更を不得。振反り。歩卒の分
際。主の仇を復んと。其心のあや。命成助。猶ろと。小
苗。奇怪。然。主。道小遣。太刀拔。て。鬼
小源太ハ無双の大力を。早。身成沈。馬の両脚成手小扱。曳。と。小
別及。馬ハ屏風を倒。横。小倒。主。大地。七郎も
者。足踏。小源太透。走り。侍。無手。組。曳。と
捨合。七郎ハ矢猛。速。戦。は。れ。氣力。衰。終。小源太ハ組敷。れ。と
首。成。揺。小源太と主人の首成取下。木の根。小。七郎ハ首成手向。と
泣。多。其。身。小。一。点。も。過。な。り。と。い。も。朋友。の。讒。言。よ。ら。り。御。不。具
成。衆。り。此。度。の。隨。從。小。後。主。本。意。を。小。推。く。戦。場。出。天。暗。と。敵。の
首。つ。つ。御。不。審。成。暗。と。存。小。ひ。ひ。早。く。も。討。き。小。ひ。一。殘。念。の
よ。され。も。當。の。敵。小。重。光。が。討。く。は。修。羅。の。志。仇。を。暗。く。安。難。淨。土。へ

カワ...

赴た少くも念符十遍むり唱ふ。其辺に堀を主の首を埋め。扱七郎が首
取手小持廣助が馬小赤をふく杏小純行大音小敵も親方も是れん少く富
部三郎どのを討つ。西七郎廣助を家後が即ホ并洲小源太重光がうら
りり。主の仇を報せしと叫りたれむ。西七郎が家子大の怒り。十七八騎
曹成及しと喚りうら。小源太をみり殺けし事かれむ。六二騎めと敵中
へ割く入る落花微塵小切と廻り。敵七八騎切と落し五人小手成負せ。其身も
すく小切まをうら。猶七郎も負成放しと抱くくと死しうら。木曾どの
此より石まころ矢しと身ハケ様の即ホをこ持てれし。深く惜しむ
重光も負小太刀曾成しうら。未銭若子成添く彼が妻子贈り遣しむ
り。是れ小依り并洲く縁結の者其仁徳小感し皆木曾殿の身方小忝り
資永敗軍巴女武勇條

斯く其日小逼合ゆり日由西小傾た多て。西陣退証を鳴しと勢成し

軍ハ明日とど定めたる。然る小其夜木曾殿ハ啓小信濃源氏乃内井上九郎光
基成已し何々々今日小逼合小日成暮せし。敵の強弱を越え其深死所
存ありむ。御辺今宵の内小紙中く赤旗赤箭成拵。明日赤明小送乃
川下より敵陣(向い)頑愚乃資永必定後弛の味方と心得油断し有
命。其間小白旗白符小取替不意小敵陣(斬)其時我物軍前より進
南北より狭く討つ。二戦小しと敵成追落とせしと本々練成授少む。井上委細
領掌しと我陣小返り。火急小多く赤旗赤箭成造し。せし夜深た小な
勢小星名堂の勢を合せし四百余騎本乃川下(陣)陣。明る遅しと待居
し。去程小短夜乃癖をれ。早東雲の天明より朝風涼し。小吹出せし。ん
須波赤まよとと各用意の赤旗多し。押立甲の袖小赤符付し。川をこりし。
徐々し城太郎が陣。歩向小平家付侯是れ足し。大将資永小斯と報し
んむ。按のしと資永是を後弛の味方と心得其者なりと云せし。何



薫
 巧
 匠
 會
 名
 一

九

斯く者到延引せれど誰人あもあき遅参の料を謝とふも今朝の
 朝蒐小敵を追まらる一手並見く後本陣(きき)れいさなくを得て對面
 とまへられと云遣し多ふ井上心可笑あひかかると言く使成返しこれど
 然りつと敵小泡吹せいのあぶ御見物とふる軍一と言く使成返しこれど
 資永笑盡ふ入天晴勇々い味方の着よりと何の用意もなく小高丸岳の
 登り合戦今やと眺居り河小源氏の陣小未曾殿令傳へて未明小物軍
 小兵糧を喫せ例の七手組一毎小陣場をちま筑六川を廻と渡し短兵急
 小敵陣小向ひも資永杏小此侍をえと扱と敵物勢成りて雄雄を二河小
 決せんととるなまり彼一手のさく心かとなく加勢の用意せよと命どふ
 うち早敵軍ひつくと押寄陣を唾と上無二無三小切くく侍是成りて井
 上熹も急小赤旗赤符を解捨て白旗綱と靡し資永が本陣用け切
 入是小依り城を陣中以外の外小周障し前後の敵を支るのく右往左往

小敗まこと未曾方勝よふと自来の勇壯百倍く踏込く戦中あも根井
 権守井樋口の四天王列将分外の勇成見し公方も地廻つて力戦とらよそ
 資永が頼み切し宗徒の者ども多く戦死し言甲斐を死筆親成推倒し
 子成突退く逃るも有るや二道か死山路小追結られ射るも有るや水を
 追込し多く朽惜た名成流とも有る初四萬余騎とせえしも死のく解
 移のく散く赤捨る武具兵苦足踏途ゆなく屍六所々小裁許の岡
 成築た血ハ混々く筑六川の川彼中紅葉成流と如かり茲小大將助
 永馬廻りの勢五百騎むりやく敗走し多成未曾七手組の女將巴女天
 暗資永が首成得ていふと自余の敵小向をうけど資永の跡を追蒐り
 城太郎即赤立川二郎承賀平郎將軍三郎かんの者どもも主成安く落
 さし二百騎許よく引返し巴が勢小より合大水も成く攻戦巴御前を
 生年十九才なる浪小村千鳥摺る紅井の甲袍も紫糸も威せし甲

然者一金造の太刀十文字小佩なり。長なる黒髪の上は鉄の刺。赤烏帽
 子亦被た信濃黒の袴。紅井の鞆。けく赤袴。リ銀の野巻。一々大長刀
 風車。の縛む。ふ。く。肉。く。當。幸。ひ。切。く。落。去。敵。は。是。女。と。下。知
 童男の斯き。剛。か。月。醒。と。舌。成。巻。く。怖。合。り。承。賀。十。郎。令。笑。ひ。童
 の。分。際。く。く。大。將。軍。成。追。な。る。不。敵。さ。よ。い。づ。我。手。乃。下。小。虜。さ。ん。と。馬
 成。ち。く。巴。女。小。近。付。三。尺。五。寸。の。野。太。刀。成。八。相。振。拵。切。く。く。方。も。は。た
 敵。と。ん。く。く。長。刀。把。整。し。往。来。も。合。更。い。ま。十。合。な。し。く。く。憐
 ひ。至。し。承。賀。十。郎。細。首。宙。お。七。以。落。され。敢。な。く。路。頭。の。露。と。消。ぬ。此。回。も。三。川
 三。郎。馬。菟。よ。せ。く。巴。女。が。左。手。組。付。成。巴。女。是。成。更。も。せ。ま。左。手。成。伸。し。く
 三。郎。が。甲。の。上。帶。搔。抓。し。耶。と。い。ひ。さ。ら。又。三。丈。許。投。付。ま。し。く。雜。兵。二。人。を。亦
 倒。し。三。川。を。五。時。碎。く。死。し。く。り。り。此。勇。壯。小。群。易。く。維。二。人。近。付。者。も
 かく。路。を。用。く。通。し。く。く。巴。敵。中。成。無。人。郊。野。成。往。く。く。實。然。也。技

前面を及ぼす。資永ハ早拔群小遊。延て影とみんえ。され。又引返。く
 敵。成。十。万。小。近。付。と。三。級。の。首。成。鞍。の。前。輪。小。結。付。木。曾。の。本。陣。さ。く
 引。退。く。是。成。乃。人。お。剛。勇。の。丈。人。中。怖。ま。ぬ。者。ハ。な。り。り。り

木曾勢夜討通盛敗軍條

再統木曾殿ハ一時の謀畧成り。さ。め。大。敵。を。追。散。し。勢。成。ま。ら。分。捕。高
 名。成。紀。緒。軍。兵。糧。を。遣。各。扱。仰。り。資。永。敗。走。く。本。国。引。返。し。も
 亦。捨。置。を。再。度。旧。好。の。士。成。く。ハ。勢。の。付。ハ。治。定。ち。り。只。此。勢。ハ。亦。一。く。越
 後。亂。入。渠。居。城。成。攻。拔。越。後。足。成。溜。さ。せ。ぬ。と。勸。要。な。り。各。旁。を
 辭。せ。ま。往。進。登。有。る。と。仰。ま。す。小。より。勝。勝。し。諸。軍。大。悦。以。引。續
 越。後。の。國。存。ま。く。亂。入。し。れ。按。乃。く。資。永。自。國。も。屍。を。居。り。て。書。子
 春。族。を。將。く。出。羽。の。國。逃。奔。し。金。沢。の。所。居。を。占。再。度。勢。成。集。先
 敗。の。耻。辱。を。雪。し。と。企。ま。す。扱。木。曾。殿。越。後。の。國。府。小。陣。を。居。令。成。出。

乱妨成林め民を安撫せしめしむ。當國の國人亦資永が因を切く。我れも
 と味方よ承る程不田小く越後も木曾殿の手小へりまうのさかきも越
 前國平泉寺の長吏後明法師稻津新助越中國小野尻河上石里堂加
 賀國あ富控う一族是追平家志然通し多輩由木曾殿の鋒先志怖
 各越後の國府より承候し人質を出し神文を呈し承り御味方より
 へ更を望むほど。木曾殿神妙思召別位引出物信儀約一足げ下されれ
 ども今も難有項載し面々自國へりり。今井四郎練く曰今夜明を始め
 其餘の徒心緘よ飯降しるふはいつ。只津勢の銳氣を避くは候し来り伏
 ころのよ小は然るも厚く降れを請御し出物も賜るも聊御思慮の浅
 たよいつとやとせられた。木曾殿微笑しむ。我も彼も緘よ降承しるふ水
 更ハ志まると然るも偽ゆめあま飯降しる者拒り許さざらん。義仲こ
 と狐疑深大將よしく適減し降承る志ある者も志然通書ざらん。

古人も貴族以て賤し下るを人を得所以なりとあり。や今後明亦偽の降
 承ゆめせよ。徳を以て是小及ま。遂小志心伏を乞ふと仰さふあを兼平大い
 小慍愧し。緘小君凡人あまひりたまさす。其度量の廣さを感とる。去
 程小城太郎筑廣川の戦小敗績し。本國越後さ木曾小奪られし。越前都
 へ志然告る更櫛の齒を挽がく。平家の人々大い小誤れ。此上を征將を差
 向く退治ある。中官亮通盛を大將し。其勢三萬余騎八月十六日小
 都茂啓行く。日九月四日越前國水津小着到。此皆先達く木曾方。更せんを
 根井大跡太を先陣し。七手組の緒將越前。地に向ひ對陣ある。されも通盛ハ
 敵の機を量りし。大急小攻らむ。日々足輕を出し。矢軍一臺を死合
 戦をよ。遂こと木曾殿ハ深く針し。更あま。程小あ。日を送
 らる。小。平家ハその手剛に敵なりとも思ふ。徒然なるも。榎君自拍子を陣
 中。招き。晝夜酒宴游興小耽り十分怠慢を生。木曾の向者より。探

史々弛回り木曾殿小斯と報れんむ。さきを練を行んとく加賀の國人林井上
 富樫の徒下知し。云々々々敵の後を襲ひひと命せらる。列將領事手々々
 面々一手の勢を率一。家城を出る。昼山林小伏夜八道なるに平家の陣
 小間道先所々小埋伏一。相回成今やとお待たり。木曾殿と加賀の國人已小敵
 の後(回)まゝと見むひ々々。昼より潜小枯柴燒草の用意一。ゆふ。其官細
 雨終日降暮一。を究意の時節よと。初更小兵糧を喫二更小おま。人ハ
 牧を合々馬と曹成縛り。敵陣近々と押寄。俄小岡を奔一。番手成定て攻入
 くれ。平軍強死強ぎ。須波夜討のへいどとく上成下と及一。周障狼狽とる。更
 大々々々々。大将通盛六殊小恐怖一。早落支度せらる。小侍大将武藏有國
 上総忠光金弟悪士兵傷景清あんど。士卒成房一。敵小當り茲を詮途と防
 戦と。これも夜中といひ俄の更をれ何れ。敵の味方とも多々。これハ
 多々。月士討一。疵をさる。のりなり。木曾方ハ。相刃相符。少々。味方は士を

あり。これ其煩ひなり。早陣々小柴枯草成投け。火成。これ。折ふ一
 北風属一。吹。此処彼処一。烈々。と燃上り。其光り。昼の。く。な。ま。こ
 とれ。成。カ。小。茲。小。討。伏。彼。処。小。切。伏。サ。リ。ひ。く。の。分。取。高。名。成。頭。一。々。平。家
 火の手小倍おら。死我先中と途を奪。落行程小。適耻成知。徒
 引行味方小誘れ。心。な。る。も。落。行。此。所。所。小。埋。伏。と。る。林。井。上
 富樫が徒。茲。彼。処。より。出。出。く。落。行。敵。成。討。程。小。平。軍。ま。大。小。討。き。大
 將通盛も矢痕二。処。負。既。小。討。る。を。一。成。忠。光。景。清。ホ。カ。戦。一。敵。成。追。散
 一。漸。小。救。ひ。出。一。終。夜。敗。走。一。辛。う。一。津。苗。賀。の。城。小。引。籠。ぬ。始。三。方。騎
 と。多。く。も。或。と。討。ま。或。ハ。落。矢。一。よ。く。二。千。騎。小。を。過。む。斯。く。と。不。時。と。托
 馬成り。つ。都。急。を。告。後。兵。成。と。事。頻。なり。木曾殿ハ。北。度。も。十。分。の。勝。利。を
 得。引。續。く。敦。賀。押。寄。し。と。議。せ。れ。多。く。小。必。心。越。後。より。早。馬。到。来。一。城
 太郎資永。旧。好。の。黨。を。催。促。一。刺。出。羽。国。人。若。二。三。を。先。敗。の。耻。辱。を

清めんと既小出陣の用意頻なりと告るれど先資永伐亡し後小
敷賀を攻めんと根井林井上成平軍の抑と水津小屯させ木曾殿
と残る諸軍成率と越後引返し間者成りつて敵の模様を窺ふと小
資永進々越後(乱入と云はれり)ゆえと云ふより木曾殿諸將集り既
小其軍配成とせしめたる

喘涸声練討使資永氣死條

時小木曾殿諸勇士小仰々る資永羽列金津より當國きく小と路次
りつとも嶮岨難渋の山坂多れむ軍馬大の疲る座し兵書小成りつて
旁を待とり味方諸所小埋伏し敵の陣場を多る成り火急小探する
か一挙小追散とべし今井樋口插望月巴の令小三百騎は成授て
資永がきくぞ路次の山谷深林小埋伏せり又越後の國人若干小謀と
授けし伴と資永小降らせ國府の城小旗物物少をりまの無

中々奮る跡小見せしけ今や遅しと待りけり茲小能列吹木山の客僧小堪
慶坊といふ山伏あり此者行徳はまの更のあふれも生得音声大し
高く叫とれ三里を隔てもはゆる程の屬色なりとれ木曾殿召抱ひ
久く杖知しかれり諸人の是を何の爲ふやと日來不審居る小本曾殿此
度彼山伏を潜小招れぬ今般と和僧公用由能れ時きれ且脚坊資永
敗まると落行山中の木小揃小在り如斯く叫びぬと臺々小謀を授けり
と堪慶領掌と其所も定めと出行り却説城太郎と合衆城四郎
永用とゆふ二千余騎中々木曾が越前在陣の留守を襲ひ越後を切返
しと徑小木曾が後小逼り平軍と交々伐んと羽列金津より越後へ起ふ小
敵軍一人もな追々小國人も降を乞ふ既小四五百余騎小成り大の坑
ひ足場たる所小陣を乞ふ明日國府の城を攻んと其日八人馬を休め長途
乃方を伝ぎし兵糧を炊せたりと云ふ忽ちと四方小貝鐘の音震

昇一右より八今井四郎兼平三百騎左より種六郎三百騎前面より八
 御前三百騎各一各小鯨波を合せ三方より無二無二切く入ふど資永の勢
 仰天一是ハとも何の面も寄る敵と狼狽をうらうハ太刀とて廻り上を
 下とて灰一たる然る小昨今資永小降を乞ふ多國人も皆木曾殿の謀に受て
 多そ忍ら裏切り當る我幸い小難廻る是小依り資永兄弟再び該兒
 叔と降参と見せし敵の謀ゆり有るど油断をせと呼らるれを耻を知
 ころ黨を敵を防んとせれ何の嶮嶮を越る人も馬も疲る上兵糧も
 喫れ戦小気力なく只途を奪て逃ととる者も有りや。墓々一敵
 小とる合者小稀なりりり資永兄弟も心絆あせれも移ると崩立し
 勢の辟れ足並立整とてた中もり刺日漸々小暮ここれ途と
 失ひ僅小二三百騎ゆりも羽列をさく敗走とる小前面の左右より
 再び鯨波奔り手塚望月の両將舊地直討くはさるれど長途乃

旁の上戦ひ屈せ資永が困兵今と腕も脚も痠痛討く者數をさる
 ど資永も太刀痕二ヶ処矢疵二ヶ処を受即黨小枝ら喘死く落行々小
 忽ち虚空小喘溜る声く南商淳提智證大師乃建之あり園城寺
 小東大寺成燒金銅十六丈乃盧遮那佛成滅一なり。平家小加膳人
 とも者茲小在を捕佛對天罰をせしむとて呼りり。其声雲
 小響は遠近の谷々小呀く冷く中ををを資永肝魂も身小添む忽ち
 呼し叫び馬と下り逆小落く其息絶小る永用も即亦小大い小
 死急小技け起せど早息切れを初周障一屍を馬小棄擲もんと落
 行々今も資永小後ひも士卒ども彼怪し死声をせり身も毛堅
 何さ平家乃方人せを終ふと神佛の怒小觸らると俄小志を去り
 木曾殿へ降成を由あり。其已がまが小落行者も有る一人も資永が
 途を見届くとも者ハなりり。彼虚空小叫び一色山伏堪慶坊あり

木曾殿の腹心の黨より外ハ知者さう小なりなりハ例と昔も有々
 彼等の手盃君が三千人の食客の手鷄の鳴音成りかた者あも其
 小も女乃能もあられれ諸人は是を早も狂ハ下不用の漢カリと辨あり
 これも孟嘗君とせぬ顔一々猶彼士成技知りたれ小或時身の大車出
 来り夜中俄小函谷関とて関を越んとせし此関曉の鷄鳴がさあつて関
 門然開きふりなれ件乃士鷄の音成りて數言鳴り小遠近の鷄是と
 真の鷄の鳴と心得一齊小時を告げし是小依り守関も夜ハ明もと
 心得関門を在死ふり孟嘗君も從者も危急成免を許し小歸ふり
 成得り是即ち木曾殿の山伏を技知りたれ喘涸壺の練を用ひ資永
 小氣死せり緒卒の心を疑ひ惑りしむひと日乃美譚なり但し此事
 源平盛衰記平家物語ホ小実小虚空より叫びやう小書り緒言挙る
 神変不側乃事也此類乃事多る也

根井武勇拔敦賀城條

京都小北國の合戦如何あつと評議區々かか小忽ち早馬着到り
 徒勢ひ強く水津の一戦小官軍敗績し大將通盛十先を免き辛うて
 敦賀の城小入りしもの軍勢或討を或落失く漸く三千騎あつと急
 死緩兵を下りむむと籠城叶ひしと注進も朝庭の百司百
 官色然失ひ今東國の源氏勢ハ長大く征りたれ小北國の兎徒
 如斯なると奈何と退治とせんと惘惑り然る小再九月廿日城太郎
 舍弟永用が早馬六波羅へ看到り注進の状を呈し平家乃一門弛集り
 封し是は續小兄城太郎資永旧好の武士成驅催し木曾追討の爲越
 後へ奔向せし夜中成り刻むり小地動天響食た雲中ハ声有る園城寺
 東大寺成焼金銅十六丈の盧遮那佛を亡し平家乃万人茲小在召捕
 り佛四対の程むしとせよと叫び是は史者戦栗せし資永も落



資永 氣死 廿七 圖

力切圖會後



義仲

真田圖會後

馬ノ心大中風ノ病を受平足痺ま口舌剛リ翌日巳の時死去仕り畢ねと
 流石不覺の敗軍の妻、載ざりたり。平家の人々再度大のふやふと死
 斯くハ不叶と云、但馬守經政左馬頭行盛の兩將小二萬余騎を授け通盛
 加勢と云、一む。兩將此兵を領し、都を棄足し、多う。諸軍勢の城永用
 注進のかりむを泄。斯許天地神佛の憎まう、平家の運を頼む女
 多れとあやぐと思ひ、小敵を伐平げ、今取高名せん、の義勢かたりたり
 此日早くも未曾の問者、史知く越後注進、一々ふより、未曾殿其身を
 越後小在な、越前小あり根井が方、軍使を遣し、都より敦賀、緩兵と
 下を、其史えあり、い、加勢の看到せ、うち、敦賀の城を攻落し、通
 盛を追拂ひ、の、都の緩兵も空しく、半途より引及、んと下知せ、る
 根井其、音承り、林井上、雷控、ホ、手、管、定、九、月、六、日、の、曉、小、水、津、を、立
 翌日敦賀、押寄、三方より、曳、色、一、攻、寄、る、城、中、小、い、都、乃、加、勢

き、さ、ろ、小、早、敵、の、寄、を、大、の、周、障、を、あ、り、勢、成、緒、方、分、く、命、成、限、り、小
 防禦、一、多、も、追、手、の、寄、人、根、井、大、弥、太、と、水、火、を、も、避、さ、る、剛、の、者、を、れ
 一、更、し、も、せ、ど、士、卒、成、属、一、番、小、此、手、成、攻、破、ま、し、下、知、と、ら、わ、ど、根、井、即
 堂、内、系、十、郎、平、村、平、馬、と、り、二、人、の、壯、士、が、當、城、の、一、番、棄、一、く、緒、人、の、睡、を
 覺、さ、せ、と、廣、言、し、攻、進、付、當、城、を、横、箭、射、る、を、要、と、構、へ、れ、と、三、方、より
 雨、雷、と、射、下、す、矢、小、中、り、さ、も、勇、一、兩、人、の、一、場、の、塵、と、成、其、後、小、續、と、る、根
 井、が、勢、三、十、騎、許、一、時、小、射、殺、さ、れ、ぬ、是、小、氣、億、一、く、寄、兵、中、の、と、綱、と、引、根
 系、放、し、く、跳、走、と、なり、厚、板、の、擁、方、手、小、被、た、右、小、三、尺、五、寸、の、夷、物、造、の
 野、太、刀、抜、拵、勢、ハ、奔、馬、の、如、く、走、り、或、門、小、進、付、起、ま、る、敵、前、と、切、拂、音、雨
 雜、々、堀、を、引、破、り、躍、々、敵、三、人、を、切、く、落、と、王、將、如、斯、か、れ、後、卒、何、と
 猶豫、と、云、れ、我、方、一、く、攻、付、く、系、入、小、と、城、兵、今、防、る、或、ハ、射、ま、或、ハ、生、捉、ま

言甲必及之者。後門より落失るふぞ。林富握る勢も城戸を攻破りて込
 入ぬ。大将通盛是れ也。今如何か。叶い戦死せしむ。根井亦と敵と拂
 有國景清亦種々練め。後門より後落し都をさく。逃上る。根井亦と敵と拂
 ひ書々。城中小立軍。早馬をりつ。此首を木曾殿。注進し。義仲大
 小喜喜。悦あり。緒士小感状。中由根井が高名比類。甲一領
 俊馬一疋。及下され。却統通盛。針残され。勢を率く。と落られ
 多か。若狭由。経政行威が勢。行合有。顛末を結。両將も大
 驚。城を攻。及。義勢も。一旦都小上り。拜儀。乃上免。角せ。と
 連。引返。ね。嗚呼。是何の事。俊も。王命。奉。萬騎。勇。勢。を。領
 一。獲。兵。小。向。ひ。な。敵。の。矢。先。を。恐。む。旗。の。色。も。見。ど。手。残。さ。う。引。返
 と。と。柔。弱。の。億。病。の。ゆ。え。都。平。家。の。二。門。廿。余。年。の。栄。花。小。續
 り。待。歌。管。絃。の。推。藝。の。小。心。を。水。風。雅。の。道。小。堪。能。か。れ。治。小。居。て。礼

我志を兵道。賤れた物と。か。の。落。し。心。掛。り。毎。時。不。覺。の。と。れ。此。休。小
 くと。浪。滅。遠。う。る。心。あ。る。輩。疎。く。見。限。り。源。氏。小。志。を。通。り。と。ふ。よ
 里。平。家。乃。鋒。先。弱。り。行。多。と。薄。情。う。れ

中臣定隆寛等法印変先條

去程小都小。北國の征將。敦賀の城を攻落され。逃上り。加勢。と。下。さ。る
 経政行威も。俱小。引。返。し。多。小。お。た。れ。門。の。軍。略。の。拙。た。小。心。付。む。小。神。仏。の
 威。を。り。凶。徒。調。伏。の。御。祈。あ。る。と。奏。し。多。小。お。り。則。ち。勅。命。下。さ。る。社。々
 神。領。を。寄。ら。し。神。祇。官。人。緒。社。の。宮。司。本。宮。末。社。と。凶。徒。退。治。の。祈。禱
 修。と。た。り。宣。旨。あ。る。と。多。小。お。り。緒。寺。の。僧。綱。も。源。軍。調。伏。の。秘。法。を
 行。ふ。と。紹。あ。る。ふ。り。天台。座。主。明。雲。僧。正。を。按。政。近。衛。殿。奉。り。根
 本。中。堂。小。七。仏。薬。師。の。法。を。修。せ。る。園。城。寺。圓。惠。法。親。王。を。新。宰。相
 恭。通。奉。り。金。堂。小。北。斗。尊。星。王。の。法。を。行。せ。る。仁。和。寺。守。覚。法。親。王

然も九條大納言有遠奉らるる孔雀明王の法を修む。其他諸山の碩徳も勅宣
 小依る北斗尊星延命大元并才隆天内法外法敷を盡し執行の院の御
 所小五壇の法房寛前大僧正六峰三世昌雲前権僧正六軍茶利實譽権
 大僧都大威徳公顯前大僧正六金剛夜及澄憲新僧正六不動明王の法
 各丹誠を疑一行ひ盡し七室の數珠も粉小碎ふと祈られ奉る。
 社官ゆく神饗良ありく例幣然二十二社奉らせらる。且も朱雀
 御宇天慶年間小純友追討り御祈り為伊勢太神宮(甲賀)奉納有
 一例ふまらせ。此度由東國北國の源氏殊代り御祈りし甲賀を奉
 納ある奉幣使八祭主中臣親能同子息神祇女副定隆兩人奉りて又子
 帝都を發足し。往々近江國甲賀の驛小着然る定隆俄小心地例
 らしと悩所をわ保艱を加(旁)り。十五日小伊勢の離宮小着先
 仮屋小入り休足し。河小申の尅少く有る。天井より長一尺四五寸あり

から小蛇添り定隆が衣の袖の上より下りて傾く懐の中へりぬ定隆ハ
 以てさうかや。又親能其他隨後の輩由大い怪とせられた。心小帯解
 衣服を脱ぐ蛇を捜せども何地行の影もなげられ各大小不審なれ
 ども詮方なく妖を見怪し。其妖消しつゝ未文あまを心する小
 ち不如と。酒宴を催し四方八方の雜談なごり。酒の廻り小順
 ひ各地の怪を忘す。二更の比小盃盤を収め諸人小枕小就り旅の
 疲れ休めり。然る小其夜の丑の尅より小定隆寐ながら最苦げから
 声小く喚たをば。又の親能何更小やと刻起手燭をとり定隆が所小
 行くと。小穴恐ろし。定隆が咽小且り小蛇卷著り締る。小定隆之
 早手足を張魚の息小なつと喘居り。親能なごり。其小尻
 居小倒れ誰とをを叫ひ。此声小後者由か。起り追々蛇を指
 して怖きや。ひかり。蛇をとり捨んとせ。只小網をばり結る。指

ふつと此上八切捨やまとてひら風くうち。定隆も遂に勤殺しんころされ蛇へびの自みづか解と放はなす。行方ゆくまゝなりなりぬ。人々忙然いそがとて夢現ゆめげんの龍りゆうをたひ。湯葉ゆわを服せ。医療いりやう手成てな書かせ。定隆遂につひ換生かへまらむ。茲こゝに於おて親能ちか忽とち觸ふ櫛くしの身みとかり奉敬ほうけい使しを勤こむ。事こと急いそなれ。大官司だいこうし祐成すけなりが汝な汰たとて散位さんゐ後ご五位ごゐ有信ゆうしんをたり。次弟つぎの神祭かみまつりを遂つひ臨時りんじの官幣くわんひ成なり捧たげ。源家げんけ追討おいつの祈禱いのちを修しゆせ。む。百人ひゃくにんの神かみ八はち非礼ひらいを受うむ。つとてつとて。平家へいけの西にし逆さか無道むどうと天地てんち神明しんめいも憎にくむ。如ごとかれば。大神おほがみ官何くわんなんと源氏げんじ誅伐しゆばつの祈禱いのちの祭まつり成なり受うむ。つとて定隆じやうりゆうが喪死さうしハ其兆そのしやうなり。此事このこと早はやく街まち小こ廻まわり。惡事あくこと千里せんりをたり。つとて帝都ていとへまり。君臣きんしん上下じやうげ肩かたをたり。市代いちだいの珣しゆ事ことハ危あやむ。つとて山やま門かどより急使いそしやうをたり。奏そうす。當山たうざんの阿闍梨あせり覺かく算さん法印ほふいん。日吉ひよしの社やしろハ大行事おほなごうじの床とこをたり。源氏げんじ調伏てうふくの法ほふを修しゆす。如ごとか弟あに二日ふたにち不ふ勿な心こころち獲と摩ま摩まの火ひ燈とうにたり。法印ほふいんの衣ころもハ燈とう付つく。其その依よ祭まつり

狂くるく。衣ころもの燈とうるま。小こ東あづま西南しんぱん北きたをたり。廻まわり口くちハまり。つとて帝てい王わうを困こむ。萬民ばんみんを悩なやむ。つとて平家へいけ小志こし成なり侍さむらい世よ成なり治生ちせい靈れいを水みづ大おほの中なかより救すくふ。源氏げんじを調伏てうふくの獲と摩ま摩まを佛ぶつ法ほふ守しゆ獲との緒いと天てん善ぜん神かみ争まがつ。受うむ。つとて佛ぶつ敵てき法ほふ敵てきの平家へいけの徒と遠とく。ね。つとて悉しつく亡なす。其その手て始はじめハ此この僧そうを燒や殺ころす。つとて自みづから是この夜よ自みづかり。或あるハ高たかく躍おどり上あり。或あるハ遠とほく赴おもむく。虚空こくうをたり。七なな頭あたまハ倒たふす。終つひハ狂くる死し。つとて松まつの朝あさ庭にわの百官ひやくくわん信しんをたり。巴よ小こ神かみ仏ぶつもたり。奇き持もちと見みせ。つとて此この世よハ如何いかなり。行ゆく支しハや。つとて安やすん。心こころハや。つとて首くび成なり疾やま。つとて額ひたいを感あむ。つとてめ。つとて合あ只ただ薄うす氷こほりを踏ふ心こころ地ち。つとて月つき日ひ成なり送おくり。つとて

義仲よしのぶと頼朝よりとも確たつ執と條じょう

去程さつじやうハ其その年としも暮くす。つとて永なが二年ににねん小こかり。つとて兎う角かく世よ乃すなはち中ちゆう靜じやうなり。つとて東國とうこく北國ほくこく乃すなはち源氏げんじ勢せいハ長なが大おほなり。つとて平家へいけ種たね々々軍ぐん議ぎ。つとて先ま木き曾そうを征せい伐はつす。つとて其その催もよほす。つとて頻しきりなり。然しかるま不ふ側がはの珣しゆ事ことをたり。出い来きたす。つとて其その故ゆゑと

探小甲斐源氏の惣領小武田木郎信義との入を。其子五郎信光一人
 の女あり。天性客顔端兩風姿婉孌あり。又母の鍾愛の許を只
 掌中の美玉の如く。愛重し。生るる天暗し。婚を定むるや。とかり
 たる小木曾殿北國小義旗を翻し。より勢ひ旭の昇る。早五ヶ國
 戎切後へ。躬の右と左を程の盛運を。信光熟思惟し。今乃せよ
 平家を伐天下を治し者。東國の頼朝。北國の木曾を。我傳へ。夕
 義仲小男子あり。是を我婿とす。家乃般昌此上を。とす。門類族
 にも。向儀し。弁舌勝る。郎黨を。木曾ト遣。信光も貴辺
 しく。清和源氏。れが。二門の衰廢。歎た。何卒。兇暴の平族を伐し
 と。かり。つ。も。自國の政敗事。繁く。宿意を達せ。然る小貴辺。一
 北陸道の義旗を用た。資永が。多勢を伐敵し。通盛が。猛軍。成。返。一。か
 一。より。遠近。其。威武。伏。飯降。の。後。響。の。物。小。熊。ど。ろ。ぐ。く。始。向。外。敵。は。

願くも信光も。小カ成。併し。平家を殺し。盡さんと。なり。更切。り。隨。後
 来。跡。水。奥。の。因。を。結。ゆ。め。わ。も。其。が。愚。女。を。賢。息。清。水。殿。の。妻。室。小。よ。り
 せ。り。御。承。引。小。み。ひ。の。信。光。が。幸。甚。と。し。と。約。を。盡。し。く。中。せ。る。木。曾
 どの。ま。ま。ひ。以。つ。外。小。氣。色。成。損。し。使。者。小。向。く。仰。々。信。光。口。賢。く。源。氏。の。衰
 微。を。歎。く。な。り。中。越。れ。れ。も。今。日。よ。り。義。兵。を。起。と。力。を。我。騏。尾。小。付。と。武
 名。成。千。里。小。ま。き。と。し。と。さ。り。片。腹。の。れ。小。鳴。呼。が。き。く。清。水。冠。者。成。婚。小
 々。々。の。所。存。を。可。笑。ま。き。女。持。と。さ。り。越。し。冠。者。が。侍。女。と。な。り。使。子
 登。し。妻。室。小。み。ひ。の。小。み。ひ。の。此。昔。を。飯。の。回。報。せ。と。荒。ら。ら。言。渡。し。席
 を。蹴。ま。り。へ。む。ひ。の。使。者。大。小。面。月。成。失。ひ。這。々。の。躰。中。巡。飯。り。腹。の。さ。り
 あり。木。曾。殿。の。及。各。小。尾。鱗。を。添。く。中。さ。り。信。光。も。大。小。怒。り。憎。む。義。仲。が
 過。言。ま。り。つ。も。渠。八。幡。太。郎。の。末。葉。し。ひ。の。も。久。壽。の。乱。小。又。を。討。き。所。領。小
 さ。く。故。ま。り。纏。解。つ。内。より。浮。牢。人。と。なり。よ。り。実。盛。が。情。少。く。兼。遠。が。艱

心を受通運うけとほりの合あはひの四よヶ國を切取きりとりし鼻はなふくけ飽あまぐ當家あてを直下ただしたと
 糸いと奇怪きがいなり抑我家おさめが八幡やまはた太郎たろうの舎弟しやてい新羅しんら三郎さんらう義光ぎこうの嫡孫ちやくそんとく代
 々くわくわく甲列かうりつを領りやうしいさ人ひとの援助えんじゆを受うけ嗟さ頼らんの食くを喰くふと我秘藏わひざうの娘むすめと以
 清水冠者しみずのかむかみが妻さいを遣つかさんしつを世よに難がた有ありぬる僅わずかの武威ぶいを邊まへ
 侍女しやじよ婢ひを召使めいししと八法はつぽう外がの自痴漢おれまなり好々よろよろかり子細こさいことあましく書状
 成なりつゝ鎌倉かまくらの兵衛べいゑ頼朝らんてうが許ゆるし遣つかさるる未嘗みさう義仲ぎちゆう義光ぎこう先年せんねん城太郎じやうたろう
 資永すけなが亦また勝かつしつを以来いらい加賀能登かがのの越中えちう越後えちごを弟あに頼朝らんてうが得えたれ
 平家へいけも忠ちゆうに征せいしつゝやかりひさ右大臣みぎのちゆうじん宗盛むねもりの末すえの女むすめをすつゝ木曾きぞうの
 嫡子ちやくし清水冠者しみずのかむかみを娶めとせんと言送ことばを送りし義仲ぎちゆう是こゝろに承引しやうりんし内々うちうち和義わぎを綱つな
 表あらわし平家追討へいけおしつゝ上洛じやうらくをと披露ひかりし実まことに平家と謀まがを合あし鎌倉殿
 を傾かたむしとの企こころありと專まことに言觸ことばをし合あひ構かまへ御油ごあぶら筋すぢかゝりかと賊あししつゝ
 總くわんしつゝ原はら来きたり佐殿さだと天性てんせい純言じゆんげんを好このむ癖くせきある大将たいしやうなれば大おほいふれらるる

心中こころ義仲ぎちゆうの忌憎いみわらひの心出来こころ多おほ折おしあを彼かの不ふ覚かく分ぶん十郎じやうらう行家けいけ八度はちだ々
 の合戦あはせ二度にど仕出ししし事ことなればいさ半國はんこくの所領しよりやうもなり即黨いさだう小
 島こじま米銭べいせん小吏せうし女によ一時いちじ佐殿さだ小こ行家けいけ數度かずだ平家へいけと戈鋒かきざを争あひ家
 子こ即黨いさだう多おほく失うしなひは彼かの供くわん養やうを中なかつ宮みやとくはる何國なんこくゆもあを二國にこくを
 賜たまふといと惣そうまゝに佐殿さだ仰おほせく中なかつ予よ石橋山いしはしやま旗はたを上のぼし矢石やせき行馬ぎやうばの旁はたを
 經へく今いま已いま小十せうじゆ余あまヶ國こくを切取きりとりぬ木曾きぞう義仲ぎちゆうも一度いちど憤ふん棄すつゝ五ヶ國ごこくを後あとり貴
 迎むかふも自みづか力ちから成なりつゝ何ヶ國なんこくなりしも知行ちやうちしむ今いま予よ十じゆ余あまヶ國こくを領りやうしつゝ
 つゝも派は々の昔むかしより志こころを違ちがひし戦いくさ小命せいのちを絶たし黨だう成なりつゝ半國はんこく二國にこくの主
 小甘こあまをやと思おもひしども五ヶ國ごこく十ヶ國じゆこくゆも中なかつ々く不足ふそくなればへま後賞ごせうの沙汰
 小及こあむも況いはず無功むこうの責せき邊へに進すすむと地ち二郡にぐんゆもかゝり各おのおひし行家けいけ亦
 面おもてへ退出しゅつとしつゝ心中こころ大おほい佐殿さだを怨うらむ即黨いさだう二千にせん騎きを隨したがへて夜中よなかつ小松
 田た亭てい行家けいけ乃な殘のこ忍しのび出い出で越後えちごへおひむれ義仲ぎちゆうを頼たのむ身みを寄よるる何卒なんぞ義

仲成怒激させ。頼朝を討せし先日の遺恨を晴さんとの心小巧。木曾殿
小錫くくや々々。貴臣の知るや。鎌倉の頼朝の自らの志あり
とのいもの。東國の人心の平定せられ上洛し平家を伐服せし。然るに
御身北陸道の義兵を上勢の破竹の如く。向ふ処ありと降るをなされ
頼朝大の當家の功を猜し。平家より先當家成倒さんと内々其催し有
の処頃日や。武田五郎信光書翰ありし。義仲と清水冠者成宗盛の
婚ひせしと約定し。潜し鎌倉の勢を向ふとの結構あり。御油断いふと中送
しふより。弥當國の勢を差向ふと其用意頗かり。我是を練るといふも一
圓承引をせん。其無道を見限り當家成技し。参り急死不虞の備
をなす。或は天運小懼し。木曾殿大の心小。急死諸士成招れ
集り。此事如何あしと評議あり。小樋口今井の輩や。鎌倉殿信光
絶言を信し。當家を亡さんと勢を向らる。此方小其手當し

あつぐハ叶ふ急死熊坂山の切所小砦を構へ防禦の備をなす。此中
より。其刻頃頃急死小城廓成築た。究竟の兵二万余騎を空しくす。尚も
間者をとりし。鎌倉の虚実を窺せらる。此時鎌倉小八十郎行家俄
小手勢を卒し。逐電せりと風鋭し。佐殿も扱ひ先日の義成意恨小
ありの野心を披き。何國も移住せしや。探り申す。諸方
間者成へく探せし。越後越々木曾小身成寄る。回報し。義仲
無坂山城を構へ合戦の手當頗かりと告ぐ。叔を信光が。義仲
平家と合体し。予を亡さんと謀り。行家をも引寄し。其義なり。速
小本曾成退治とす。十万余騎の猛勢をりし。信濃と上野の境白
井坂まき出張ある。木曾此吏をす。防御の備。嚴密なれ。浪波源
氏は士軍の始り。諸人手小行を握り危が。是只信光が絶言と
行家が心言より事起まり。利口乃邦家を覆るといふ。或は成

両源家和平赴清水冠者鎌倉條

茲小土井二郎実平八所旁小依く私宅小引籠居りて此度の一件を
 大の事柄と見れば病状杖く白井坂の陣かりむれ鎌倉殿を練言上りけ
 る八某借考(んい)小。木曾殿一旦高倉官の令旨得玉ひ殊小北陸宮を
 守傳く義兵を上強敵成瓦のぞく碎れ堅陣成席乃て破り玉身の平
 家小因を結び必心し小令旨成反古小一日流の源氏を伐んとせしむべ
 恐く平家より間探の謀を用ひ味方小日氏軍させく其弊小兼せん
 信光行家ホが總言乃を処りと思ひ抑君東國小義兵を起し
 木曾殿北國小旌旗を上らき一俱小帝王乃て萬民の爲小鴉る平家と
 殊伐せん結構小いひむや。然る小其平家いひが亡滅さる小總言反回成信
 日氏軍あくる小脚賢慮の足さる小似たり。右結小由兩虎争と死二虎
 八斃き二虎ハ傷く。捕師其弊小兼りて勞せと二虎を得とせり。今木曾

殿と當家と先成争ひ玉と二虎の争小似り而く平家を獵雄と成
 手小唾しと兩家を亡きととを電一不如先應使者をのつと木曾殿
 乃所存を御史乳一有る弥野心小究す六其時雄雄存亡の二戦を遂
 玉小ハと理を盡しと凍れ佐殿稍女時黙然とと脚座一とるが
 実平がり処采り其理あまを漸小御得心あつと天野教内民部遠景と
 岡崎四郎義実と兩人を使者と別小安達新三郎清経を副使と一と
 木曾殿許遣さる三入君命成承り即黨女を引連越後小かりむれ
 斯と通トれ即時小城中小詰ト令木曾殿直小脚對面ある天野遠景
 先中々大政入道清盛朝威を怪くと帝王を困りし神社佛閣を焼掃
 ひ頗る逆威小寡きと源家日姓了筆小仰とせりと君乃と速小追討
 ととたし高倉官の令旨法皇の院宣を下されり然るに維々中夜を日小
 經と逆臣を伐震襟を休めを死小當家小於と賢鳥清水殿を宗盛

の婚むこのちやく小約定ありて、平家と心合こころあ一鎌倉かまくら戎攻伐ありとの企こころあるより
 同統どうとうあるを新宮しんぐう十即行家じゅうじやくけ私ひその遺恨いこんを誅つと頼朝よりちかを討うんと逃奔にげしと召よ
 たるとりて技知ぎちありて、一定頼朝よりちかより奪うばふことの結構けいこうありて、察さつ一是ぞ
 八出陣はししゆじんし、佐々木ささき五絶言ごてつげん及間及びまの族しゆ巧たくまなりんも量りやうされば、應お御所ごしよ存ぞんと
 承うりて、飯いひゆくの君命きみのみことゆきと、憚おそれなく、噴ふ若わ法はふたれ、木曾殿もろぞの完示くわんしと、
 討うちくまふる義仲よしちゆう不肖ふせうなりと、いふ高倉宮たかくらのみやの別わかの令たま旨み成なり賜たまり、小依こよりて、微
 勢せいなりと、北國きたくに小旗こはたてを兩りやう丸まる運うべ叶はひと、早く五ヶ國ごのくにの王みとをきり、然しかる何
 り不足ふそく有ありて、忽たちまち小宮こみやの令たま旨み成なり捨す怨うら敵たても、宗盛むねもり小因こいんを結むすひ、佐殿さの小
 弓ゆみ奪うばふは、是こゝは武田信光むけののぶみつ己の女むすめをとりて、愚息ぐそく清水しみず冠かん者ものの妻つま室むろ小定よしぢん事
 成なり望のぞみ、一ひと云いふ、手切てきりの及及び答こたへ返かへし、されば、其その戎やぶ遺恨いこん小依こよりひて、迹
 形かたちなり、忘鏡わしきやうを佐殿さの中ちゆう送おくり、とんえん、借叔かきやく又また十郎行家じゅうじやくけ吏しと鎌倉殿かまくら小
 さる意い越こありとも、ちよと、只ただ任所にんじよなく、難あ流ながり、よりゆき、ち憑もちき、これいふ、二ふたの

好このといひ、武門ぶもんの情なさけ中ちゆう、置お置おい、ちよと、わりの、然しかる小世こよの同統どうとう小鎌倉殿かまくら何なにの遺
 恨いこんと、いふ、義仲よしちゆうを追討おせんと、御勢ごせい揃そろ有あり、味方あじ方も、其その手て當あせ
 り、佐殿さの信光のぶみつ先まに、絶言てつげんを悟さとり、御勢ごせいを引ひき、方かたを當あ方も、熊坂山くまざかの城しろを破やぶ
 却かへも、下した、亦また、向むかひ、後ごを信しん、勢せいを差さ、向むかひ、ま、弓ゆみ矢やの表おもて力ちからなく、日ひ氏うぢ軍い仕しる、登
 一ひと、同報どうほう、い、と、仰おほせ、同崎どうさき義実よしみ言こと成なり、条じょう一ひと、多おほく、御ご及及び答こたへ、其その理り、御座
 一ひと、去さり、愈い、御野ごの心こゝろなり、小依こよりひ、と、い、王み君きみより、二ふた、條じょうの所ところ望のぞみ、其その一ひと、条じょうと
 十じゅう、即行家じやくけ戎やぶを搦捕な、鎌倉かまくらへ、油あぶらと、い、い、の義よ、今いま、一ひと、条じょう、八はち、清水殿しみずを、宗盛むねもり
 の塔むす、小定よしぢ、ゆ、む、と、ん、を、頼朝よりちか、お、ま、り、い、大姫おほひめ、の、塔むす、と、い、い、の、義よ、わ、り、二ふた
 条じょう、の、内うち、何なに、ま、り、とも、御承ごせう、引ひ、あり、と、即すなは、同どう、和わ、兵へいを、交ま、い、い、の、君命きみのみこと
 小依こよりひ、と、相述あひた、る、木曾殿もろぞの、史し、ゆ、い、二ふた、条じょう、の、御所ごしよ、望のぞ、む、方かた、退ひ、く、即すなは、本もと、も、い、二ふた、應
 終すま、小合こあ、く、及及び、答こた、へ、ま、ん、る、皆みな、同どう、休やす、足あ、有あ、り、と、と、三さん、士し、戎やぶ、客屋きやくや、を、重おもく、饗あ
 一ひと、船ふね、六む、緒しよ、士し、を、集あ、り、右みぎ、二ふた、条じょう、の、所ところ、望のぞ、み、如何いか、と、同どう、い、い、い、今いま、井い、樋ひ、口くち、ハ

いづれ御幼女乃御曹子然心まね鎌倉へ争入貨小入御事あり。只十
郎殿を引渡しと佐殿の不審成晴しとて海野小室乃徒と八船鳥懐ふ
入時八捕師も是を不授とせし。當家を頼と来むる新宮殿を渡し玉之ハ
義小背多り道を下さむ行家殿と君乃叔父なり。御曹子ハ君乃子なり。子と
貯ひ叔父を捨るハ匹夫も耻る処なり。況君今平家乃罪を糾し玉之とて義
兵戎発し玉之御身乃争う是をたしむりやとて木曾殿及方乃論を皮む
ひく御を八列位乃所存俱ハ一理あり。元来此二ヶ条の所望と頼朝當家を
見落し乃難題なれば雨条とも不叶旨及答しと有無乃一戦小及んハ女を
も保え平治二ヶ度乃亂源家親を殺し叔父を討くも身戎利せんとて家
不義乃徒乃となりと世人朝り笑ふも今又平家追討乃大事を問ひ鎌倉
勢と戈先を争つと他人乃朝りを増道理なれば我忍の字を守り二ヶ条
乃内二ヶ条を承引登しされども海野小室乃のりて行家より無道人あり

予ハ頼とまきとまきハ成情なり鎌倉へ渡るとは縋たり。此上ハ冠者成鎌倉へ渡
と登しとて呼出しと膝近く招く後髪搔撫く汝を鎌倉乃兵衛佐が
婿とせしとて長く生立行末ハ方乃大将となれよとて仰せ。此清水どの
とハ兼平が妹乃腹小出生あり。當年十二才小なり玉之生得恩明令利
ゆく。文学武藝を好むと長く承りいと答ふ。又逢ふも追乃
遣物ふとて笠掛七番射て刀色むひたり。木曾殿御喜悅斜なく。叔冠
者ハ附人ハ雅成乃遣つとて仰せ。海野八道西仙ヤとて某が末子太郎
行氏御曹子と同年小ハ彼成付人となり玉之の望をたしむる。木曾殿
登しと行しと西仙坑ひ潜小行氏を招なく中々。此度清水殿鎌倉どの
乃艱子となり彼地へ赴れ。其時人貨門前なれば自然御身小凶事有
まれば小あむと。汝ハ御曹子と同年との面負さく似れ。左も右もく君の
御命小替り清水殿を立浴しなれば是又小孝を盡し百倍一戦場ゆく戦

死しむるら由よし勝まさりし忠ちゆう義ぎ之の能よくし心こころ成なり用もちひて教まを訓しれど行ゆ氏しこらびます御提てい
 のお越こえし給たまふ事記し忘わすれずとしやあをを西さい仙せん領りやう君きみ前まへ小こ伴ともひ出清せい水すい冠かん者しやか前子し平へい
 伏ふせしむ木曾そう殿でん是こゝ成なり小こ只ただ是こゝ二に双じゆうのの王わうのの下した俱く小こ若わ木きのの梅うめ様さまは並ひし
 風ふう情じやうなれ木き曾そう殿でん八はち西さい仙せん心こころ成なり推おし量りやうり西仙せん木き曾そう殿でん胸むね中ちゆう成なり汲ひくせれる
 泪なみだをな吞の返かへ一ひと共とも小こ腸ちやうをな動うごかりひせれる斯かく木き曾そう殿でん鎌かま倉くらのの三さん士し小こ御ご對たい面めん有あ
 く仰せる鎌かま倉くら殿でん御ご所しよ望ぼうのの義ぎ退たいく勘考かうとふ小こ叔しやく父ふ行ゆ家け佐さ殿でん對たい一ひと不ふ法ぽうのの義ぎ
 有あ小こ由よしせし且かつ義ぎ仲ちゆう成なり憑たもつ未まき一ひと成なり情じやうなれ榻たた引ひ渡わたしも他た門もんのの中ちゆうえり
 矢や乃なり義ぎをな似にかへり依り愚息しやく冠かん者しや幼ちゆう年ねんとり以も不ふ肖せうのの者しやなれも佐殿でんのの鎌かま
 子し小こ進しんをしん一ひと是こゝ義ぎ仲ちゆうが平家けと因成なり結むすむぬ證せう迹せきなり御ご辺へん木き立た飯いりく此こゝ
 首かみ成なり披ひ露ろ一ひと佐さ殿でん承じやう引ひあり一ひと迎むかひの使し者しや成なり差さ越こえるやり達たつ一ひとれも仰おほせり
 ろ小小こと三士し委い細さい承じやう知ち奉ほうりひく木曾そう殿でん小こ時とき一ひと白しろ井い坂さかのの陣ちん小こ飯いりく鎌かま倉くら殿でん
 小こ錫しやく一ひと遂つい一ひと言ごん上じやう一ひと六ろく佐さ殿でん心こころ解とけ扱義ぎ仲ちゆう野や心こころなりとく又また右みぎ三さん士しをこ越こ

後のち遺い一ひと利り義ぎ承じやう引ひのの首かみ成なり中ちゆうをな清せい水すい殿でんをむかへらる木曾そう殿でんも安堵とあり
 一ひと清せい水すい殿でん小こ海かい野の行ゆ氏し及かつ以も危あや後のち侍しやく女によ若わ干かん成なり附つく三士し小こ渡わた一ひと當とう座ざのの引ひ出で
 物もの一ひと一ひと鑑かん一ひと領りやう兼けん馬ま一ひと足あしはり成なり引ひきまれ六三さん士し尊そんく思成なり一ひと清せい水すい殿でん以も下したと
 伴ともひ越後のち成なり一ひと白しろ井いのの陣ちん飯いりく是こゝ小こ依いり鎌倉くら殿でん白しろ井いのの陣ちん成なり引ひきまれ一
 緒いと軍ぐん成なり率りつく飯陣ちんあり木曾そう殿でんも熊坂さか山やまのの勢せい成なり引ひ取とり若干かん成なり破やぶ却かへ一ひと両りやう家け月げつ小こ
 血ち塗ぬむく事こと治ちりれを諸人しよ奉ほうく勇気いき悦よろこびたり

木曾義仲勤王切腹會後編卷之二畢

